

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。九月に入りました。季節の変わり目は体調を崩しがちです。くれぐれもご自愛ください。

日常会話の中に浸透している仏教用語をお伝えしている今年のかかわら版。仏教用語がたくさん定着しているのには驚きます。

お盆休みは子供や孫が帰省したり、同級生で集まったり、お正月と並んで楽しいひとときですね。冷やかした半分で「おまえも出世しななな」などという台詞が飛び交い、賑やかに過ごされたことと思います。

さて「出世」も仏教用語です。仏教では「出世」にはふたつの意味があります。ひとつは「世に出る」という「出世」。悩み多き衆生(大衆)を救い導くために、仏がこの世に出現するという意味での「出世」です。

もうひとつの「出世」は「世を出る」という意味。「に」が「を」に変わっただけです。大きな違いがありません。世の中は難しいものです。

欲があるから悩み、争いごとを起こします。人の欲、世間の価値観に心が動揺し、煩悩の中で人間は生きています。そんな世の中、世間を出る、つまり「出世間」という意味での「出世」です。

厭世的になって世間から逃避するのではありません。そうした世の中や世間を超越し、覚りの境地に至ることが「世を出る」「出世間」「出世」という意味です。そういう人は、物事の道理をわきまえ、何事にも囚われず、感謝と謙虚の気持ちに満ちた人です。

つまり「出世」した人というのには、世間的、社会的に地位の高い人のことではなく、覚った人、広々とした心、落ち着いた心を持った人のことです。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という格言的な俳句があります。稲穂が重たくなると、頭を垂れ、人はいよいよ人です。世間的、社会的な地位故に傲慢に振舞うような人は「出世」した人ではありません。

「出世」には「出世の本懐」という言葉があります。「出

世」のはじめの意味において、仏の願いは衆生を救い導くこと。そのために「出世」する、すなわち「出世の本懐」です。

ふたつめの意味での「出世の本懐」は、人は偶然と因縁の賜物として生かされていることを知り、人の欲、世間の価値観に囚われ、惑わされることなく、広く静かな心をもつこと。まさしく「実るほど頭を垂れる稲穂」となることが「出世の本懐」です。

仏教用語としての「出世」の意味を知ると、世の中の風景が今までと変わって見えませんか。

ひとりでも多くの人が「出世」の意味を理解し、「出世」するほど頭を垂れて謙虚になり、「出世」した人ほど、世間的な価値観に囚われることなく、人々のために役立つと努める社会。そんな社会になれば、争いごとの少ない、平和で穏やかな人間関係の世の中になりそうですね。合掌。

※



かわら版執筆者 大塚耕平

覚王山「耕庵」 <https://ko-an.blog/>

愛知県名古屋市生まれ。日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。2002年から地元の歴史・文化の継承と振興のために、日泰寺の縁日(毎月21日)に「弘法さんかわら版」をお配りしています。2013年から知立遍照院の縁日でも「弘法さんかわら版」がスタート。

全国先達会、愛知県先達会、東日本先達会などで仏教関係の講演を行っているほか、毎年年末には日泰寺西隣の専修院で「弘法さんを語る会」を開催。2017年から中日文化センター「くらしの中の仏教」講座の講師を務めています。

著書に「弘法大師の生涯と覚王山」(大法輪閣)、「仏教通史」(同)など。愛知県立旭丘高校、早稲田大学・大学院を経て、日本銀行に18年間勤務した後、2001年から参議院議員。元内閣府副大臣・厚生労働副大臣。

現在、早稲田大学と藤田保健衛生大学医学部の客員教授を兼務。元中央大学大学院客員教授(2005~17年)。早稲田大学博士。



大塚耕平事務所 ☎0527571955 担当:あさい
名古屋市千種区覚王山通9-19 覚王山プラザ2F

